

目的・腰部における局所的冷えは、女性特有の冷え症候群の一つであるが、この解消には、普通肌着の重ね着等によつて行われる。しかし、重ね着をした場合、一枚着用よりも重ね着をした方が皮膚温の上昇をみるも、腹部の上昇の方が背部の上昇より大であるため、前者と後者との温度差が大きくなり、このために冷感を強く感じるものなることを、また、この現象を防ぐには、背部のみの保温性を増加する方法が有効であることも指摘した。(S42) 今回某メーカーが、左右脇線より背部を二重構造にした綿100%の肌着を試作したので、この効果を見るためショーツについて実験を行った。方法・①普通ショーツ一枚、②普通ショーツ二枚、③背部二重構造ショーツ着用の三条件について、腹部及び背部の皮膚温を $18\pm 1^{\circ}\text{C}$ 、65%の人工気候室内において測定した。また、着用したショーツの保温率(いずれも洗濯後のもの)は、BK式 保温性試験機により測定した結果、普通ショーツ23%、二重構造28%であつた。なお、被験者の服装は、上衣にブラジャー、肌着、半袖セーター、カーデガンで寒さを感じない様にし、下衣は毛100%(ウラ付)のセミフレヤースカート一枚で冷えを感じる様な服装とした。結果・人工気候室内にて安静の後、各条件着用の結果、①では腹部と背部の温度差が大きく、②においては腹部、背部とも皮膚温は上昇し、二枚着用による保温効果を認めた。これに対し③では、背部皮膚温の上昇は②と同傾向であつた。また、 25°C の室温で着用後、 18°C の室内における保温効果についても、③では皮膚温の下降は少く、二枚着用と同傾向を示した。このことから腰部の冷え解消に、ショーツの背部二重構造は、違和感もなく保温効果をあげることが出来るものと考えらる。